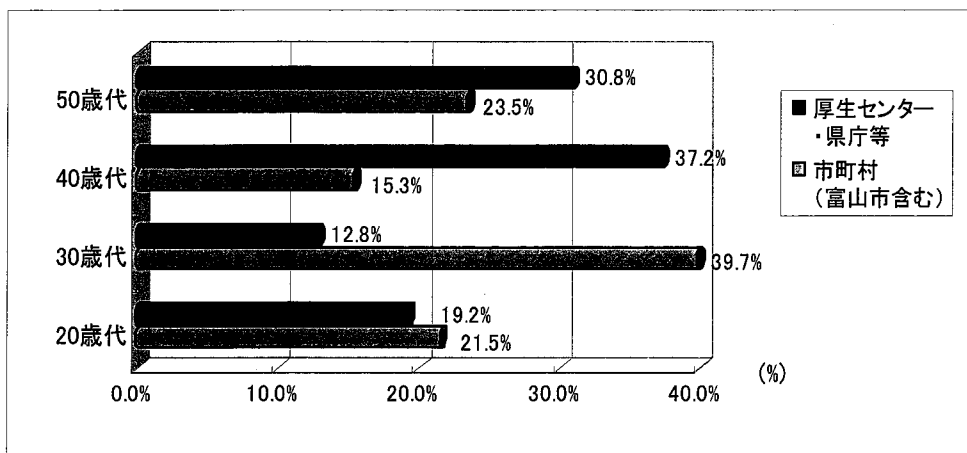


【 資 料 編 】

資料 1 年代別保健師割合

(H23. 4. 1 現在)



資料 2 新任 6 か月の業務に対する思い (H23. 9 新任保健師研修会)

日ごろ、困難に感じることや戸惑うこと

- ・様々な事業や手続きがあり分からない。いつになったらちゃんとできるようになるか不安。
- ・いくつもの業務を進めるときに、優先順位や段取りがうまくいかない。
- ・事務作業が想像以上に多く、効率よく丁寧に行うことが難しい。
- ・回覧するものが、何が軽易で何が重要か分からない、聞けない。
- ・引継ぎどおり業務を進めることに集中しすぎて、仕事をこなすことに精一杯。自分の考えや意見をなかなか持てず、業務改善することが難しい。
- ・コミュニケーション技術も未熟なので伝え方に戸惑うことがある。

業務に対する不安や 訪問、相談等の実務の弱さ

- ・学生時の実習では一人で訪問した経験がなく、訪問することが不安。適切にアドバイスできない。
- ・健診時や電話の相談にうまく答えられない。
- ・乳幼児健診で正常と異常の見極めができていないか不安。
- ・精神障害者への訪問では、ただ話を聞くだけになってしまい、適切な支援ができていないか不安。

- 【対処方法】
- ・先輩、上司に聞く。相談する。
 - ・先輩がどのようにしているかを見る。
 - ・先輩と一緒に実施してもらう。
 - ・仕事の締切などを手帳や付箋に書いてスケジュール管理している。

良かったと感じたこと、うれしかったこと

- ・住民の方やケースから感謝の言葉をかけられたこと。
- ・企画した教室が無事に終了できた。
- ・前回の訪問で出来なかったことを次の訪問で実行できたとき。
- ・何度か訪問し、顔を合わせ、支援することで少しずつ信頼関係を築けたと思うとき。

指導体制の弱さ、 育成体制が未確立

サポート体制、指導者との関係

- ・皆さん忙しいのでなかなか質問するタイミングがつかめない。聞きづらい。相談しづらい。
- ・訪問や教育などの機会がまだ少なく、自分が遅れているような気がする。

保健師として大切にしたいこと、今後の取り組み

- ・対象者に寄り添い、その対象者の力を最大限に引き出し、問題の解決に結びつけるよう支援すること。
- ・人とのつながり。地域住民、各関係機関、職場での人間関係を大切にしたい。
- ・自分自身の業務をしっかりと理解し、周囲の支援を得ながら自分なりの考えを持ち、業務に取り組めるようになりたい。

- ・わからないことはそのままにせず、自分で(本やインターネットで)調べ、知識を得る。
- ・一つ一つの業務を丁寧にやり、毎回振り返り、次の業務に生かしていく。
- ・研修への参加など他の人の考え方を聞き、自己研鑽に努めたい。

目指すべき
人材像

- 住民から信頼される、求められる保健師
- 組織の一員として自覚を持ち、自分で考えて行動できる保健師
- 公衆衛生看護の原点を意識できる保健師

社会人としての基本的能力

＜コミュニケーション能力＞

- ・挨拶ができる。
- ・困ったときに相談できる。
- ・連絡・報告ができる。
- ・自分の考えを自分の言葉で言える。

＜自己研鑽能力＞

- ・分からないことを自分で調べることができる。
- ・前向きに、向上心を持って取り組む。

＜自分の立ち位置が理解できる＞

- ・組織人としての自覚が持てる。
- ・チームで仕事ができる。自分に求められている役割が分かる。
- ・自分の考えを伝え、組織の中で共有できる。

行政能力

- ・業務の法的根拠が理解できる。
- ・行政の仕組み（予算、組織等）が理解できる。

専門職としての実践能力

＜基礎的能力＞

- ・行っている業務と施策の位置づけが理解できる。

＜個別支援能力＞

- ・基礎的な観察できる。
- ・住民やケースの話を聴くことができ、相手の思いや意図を汲み取ることができる。
- ・相手の力量や個性にあわせた話や指導ができる。
- ・正確に分かりやすく記録ができる。
- ・客観的視点が持てる。
- ・ケースだけでなく、家族全体を診ることができる。

＜危機管理＞

- ・危機管理を考慮した活動ができる。

地域における健康課題解決能力

＜企画調整能力＞

- ・課題の分析、評価ができる。
- ・課題を施策化できる。
- ・企画の効果（メリット・デメリット）を踏まえた資料作成と説明ができる。
- ・長期的な見通しをもった計画が立案できる。
- ・他部門との調整を図ることができる。
- ・他の所属や他の職種と連携が図れる。

＜地域診断・地区活動能力＞

- ・予防の視点を常に持っている。
- ・地区の課題をデータから正確に把握できる。
- ・複数の課題を系統立てて整理できる。
- ・客観的視点が持てる。
- ・地域に出向き、地域住民の声を聴くことができる。

資料 4 看護師等養成所の運営に関する指導要領
別表 1 ー 保健師教育の基本的考え方、留意点等 ー (平成 23 年 3 月改正)

教育の基本的考え方	
1) 個人・家族・集団・組織を含むコミュニティ（共同体）を地域とし、地域及び地域を構成する人々の心身の健康並びに疾病・障害の予防、発生、回復及び改善の過程を社会的条件の中で系統的かつ予測的に捉えてアセスメントし、地域の顕在化・潜在化した健康課題を明確化し、解決・改善策を計画・立案する能力を養う。	
2) 地域の人々が、自らの健康状態を認識し、健康の保持増進を図ることができるように支援するとともに、自主的に社会資源を活用できるよう支援し評価する能力を養う。	
3) 健康危機管理体制を整え、健康危機の発生時から回復期の健康課題を早期に発見し迅速かつ組織的に対応する能力を養う。	
4) 地域の健康水準を高めるために、保健・医療・福祉サービスを整え活用する能力及び地域の健康課題の解決に必要な社会資源を開発し施策化及びシステム化する能力を養う。	
5) 保健・医療・福祉及び社会に関する最新の知識・技術を主体的かつ継続的に学び、実践の質を向上させる能力を養う。	

教育内容	単位数	留意点
公衆衛生看護学 公衆衛生看護学 概論	16 2	個人・家族・集団・組織を含むコミュニティ（共同体）及び地域を構成する人々の集合体の健康増進・改善を目指すアプローチの基本的な考え方を学ぶ内容とする。 個人・家族の健康課題への支援から地域のアセスメントし、顕在化・潜在化した健康課題を明確にする方法を学ぶ内容とする。
個人・家族・集団・組織の支援		健康課題への支援を計画・立案することを学ぶ内容とする。 人々の健康行動の特性及び効果的な介入方法と技術を学ぶ内容とする。
公衆衛生看護活動 展開論	14	集団における教育方法や集団力学等を学ぶ内容とする。 地域の人々や医療・福祉等の他職種との協働・マネジメントを学ぶ内容とする。 ハリススクアアプローチとボビュレーションアプローチの運動による活動の展開を学ぶ内容とする。 産業保健・学校保健における活動の展開を学ぶ内容とする。 事例を用いて活動や事業の評価を行い、システム化・施策化につなげる過程を演習を通して学ぶ内容とする。 健康危機管理を学ぶ内容とする。
公衆衛生看護管理 論		
疫学	2	公衆衛生看護活動を展開するうえで、基礎となる疫学調査・分析、活用方法について学ぶ内容とする。
保健統計学	2	公衆衛生看護活動における統計学の基礎、情報処理技術及び統計情報とその活用方法について学ぶ内容とする。
保健医療福祉行政論	3	保健・医療・福祉の計画の企画及び評価について実践的に学ぶ内容とする。 調査で明らかにされた生活環境が人々に及ぼす健康上の影響な

臨地実習 公衆衛生看護学実習	5	保健所・市町村を含む、保健師が役割を担っている多様な場で実習を行う。
個人・家族・集団・組織の支援 実習	2	地域の社会資源を活用し、生活を支援する実習とする。 家庭訪問を通して、地域の健康課題を理解することができるとする。
公衆衛生看護活動 展開論実習	3	個人と地域全体を連動させながら捉え、地域全体に対して PDCA を展開する過程を学ぶ実習とする。 地域ケアシステムにおける地域の人々や医療・福祉の他職種と協働する方法を学ぶ実習とする。 地域住民、関係機関や他職種との連携、調整の実際を理解する実習とする。 公衆衛生看護活動の管理や評価、健康危機管理体制について学ぶ実習とする。
総 計	28	890 時間以上の講義・実習等を行うものとする。

資料 5 地域診断シート例

《資料：県立総合衛生学院》

地域診断 / 記載事項の例示

地域診断に用いる情報は所属により設定

【地域の概況】

- 1 地域の成り立ち
- 2 物理的環境（当該市町村・担当地区の位置等）
- 3 交通
- 4 経済（基幹産業）

5 医療福祉施設

(1) 医療機関		平成	年	月	現在
医療機関名	診療科	備考			

資料：

(2) 福祉施設

施設種別名		施設名	平成	年	月	現在
高齢者	特別養護老人ホーム					
	老人保健施設					
児童福祉	保育所					
	育児サロン					
障害者福祉	身体障害					
	精神障害					
	知的障害					

資料：

6 教育機関

学校等の状況		平成	年	4月	現在
	箇所数あるいは学校名				人数
小学校					
中学校					
高等学校					

資料：学校基本調査

7 文化・体育施設（レクレーション施設）

【保健統計】

1 人口統計

(1) 人口・世帯の年次推移

単位：人（％）

人口				世帯			
総数	～14歳	15～64歳	65歳～	世帯数	再掲）高齢者世帯	再掲）ひとり暮らし高齢者	人口密度
年							
年							
年							
年							
年							

最近5年間に、国勢調査の結果による長期的な推移も確認

資料：平成 年富山県の人口

(2) 人口構成・世帯の状況の特徴

図 年齢階級別人口構成
(グラフ)

(3) 人口動態

1) 出生／死亡 人（出生率／死亡率） 各年○月現在

	年	年	年	年	年	年
市町村	()	()	()	()	()	()
県	()	()	()	()	()	()
国	()	()	()	()	()	()

資料：〇〇センター事業概要 平成 年度

2) 出生／死亡の状況

出生に伴せて乳幼児死亡、新生児死亡

3) 死因順位（図・グラフでも可）

図・グラフ等で推移

2 各ライフステージ別の保健活動

(1) 母子保健対策

1) 妊娠期

- ①母子健康手帳の交付状況
- ②妊娠期の健康診査
- ③妊娠期の健康教育

2) 育児期

①母乳栄養の状況

②健康診査（4か月児／1歳6か月児／3歳児健康診査）からみた特徴
健康診査受診率

		市町村	管内	県
4ヶ月	年			
1歳6か月健康診査	年			
3歳児健康診査	年			

資料：〇〇厚生センター事業概要 平成 年度

健康診査の結果

	正常	経過観察	要精検	要治療
健診内容A				
健診内容B				

③家庭訪問

④健康相談

⑤健康教育

(2) 成人及び高齢者の保健対策

※健診や相談、教育は母子保健と同様に記載する。

※高齢者は、要介護の状態のデータを記載する。

3 特定な分野や障害を有する者への保健活動

(1) 歯科保健活動

(2) 感染症の保健活動

- 1) 予防接種の状況
- 2) 感染症の現状
 - ①結核／エイズ／その他の現状

(3) 特定疾患への保健活動

- ①対象者の把握（特定疾患治療費公費負担申請者数）
- ②家庭訪問
- ③相談
- ④集団支援
- ⑤人材育成

(4) 精神保健活動

- ①対象者の把握（自立支援医療受給者申請者数、入院形態別の患者数）
- ②～⑤は特定疾患と同様
精神保健福祉手帳の交付数

(5) 身体障害

(6) 知的障害

4 地区組織と当事者グループ

	名 称	活動内容
地区組織		
当事者組織（患者会・家族会）		

住民の健康への態度・意識（関係者へのインタビュー等による）

【健康課題と対応】

地域の実態・対策の現状	アセスメント	健康課題
<地域の概況> <人口動態> <母子保健> 事実とは 地域の概況 各種保健統計 保健事業のデータ	事実を保健活動の根拠 としてアセスメント	事実に基づくアセスメントから 当該市町村・地区の健康課題を 抽出（優先順位を考慮）

【メインシート】

平成 年度 保健師活動実績及び評価 (地区診断) 地区 (校下) 担当保健師 【 】

地域の特徴
【地域特性】～人口構成・地理的条件・交通条件・産業・生活環境・文化など～

【健康問題】～人口動態・疾病状況・健診及び検診状況など～

【地区組織活動】～活動状況・連携等～

地区の課題

次年度の方針

I 地域の特徴

1. 自然環境 (位置、地理的条件、交通等)

2. 健康問題・保健問題

人口動態・衛生統計	平成	年	前年比	平成	年	前年比	平成	年	前年比	備考
世帯数										
総人口										
0～14歳 (率)										
15～64歳 (率)										
65歳以上 (率)										
75歳以上 (再掲) (率)										
高齢化率										
肥満										
歯										
児童										
赤ちゃんと訪問対象者数 (人)										
新生児訪問数 (人)										
継続訪問件数										
母子 (人)										
継続訪問件数										
成人 (人)										
対象者数 (人)										
受診者数 (人)										
助機付け支援対象者数										
積極的支援対象者数										
胃がん										
肺がん										
大腸がん										
乳がん										
子宮がん										
悪性新生物										
国民の健康受診状況										
受診率 (%)										
1件当りの費用額 (円)										
1人当りの費用額 (円)										

II 地域の社会資源

1. 保健福祉関係施設（保健センター、老人福祉施設、児童福祉施設、精神障害者社会復帰施設、地域生活支援センター等）

施設名	所在地	電話番号	備考（利便性や利用状況等）

2. 医療機関（病院、医院、専門病院等）

施設名	所在地	電話番号	備考（利便性や利用状況等）

3. 教育関係機関（学校、公民館、青少年センター、体育センター、図書館等）

施設名	所在地	電話番号	備考（利便性や利用状況等）

4. 地区組織（自治会、婦人会、社協、ボランティア等）

団体名（代表者名）	住所	電話番号	備考（活動状況・内容等）

5. 年間スケジュール（がん検診、健康教室、懇話会など）

--

【緊急時・災害対策用シート】

平成 年度 地区（校下）緊急時・災害対策用シート

緊急避難先

●地区の避難先（略図）

--

●医療地点とする避難施設

地区名	施設名	電話番号	所在地	面積（㎡）

●広域避難場所

地区名	施設名	電話番号	所在地	面積（㎡）

●地域利防災活動拠点とする避難施設

地区名	施設名	電話番号	所在地	面積（㎡）

●避難施設

地区名	施設名	電話番号	所在地	面積 (㎡)

主要連絡先

団体名	電話番号	代表者名	住所地
連合自治会長			高岡市
地域女性ネット会長			高岡市
地区社会福祉協議会長			高岡市
老人クラブ会長			高岡市
地区（校下）健康づくり推進懇話会長			高岡市
地区環境保健衛生協会長			高岡市
母子保健推進員 理事			高岡市
食生活改善推進員 理事			高岡市
ヘルスボランティア協議会 理事			高岡市
民生委員			高岡市
地域包括支援センター			高岡市
公民館・地区連絡支援センター			高岡市
子育て支援センター（児童センター）			高岡市
			高岡市
			高岡市
			高岡市

改訂ワーキングメンバー

区 分	所 属	職 名	氏 名
厚生センター	高岡厚生センター	所 長	黒 澤 豊
	新川厚生センター	企画調整班 班 長	吉 田 智 子
	中部厚生センター	地域保健班 係 長	利 田 智 恵
	高岡厚生センター	地域保健班 主 任	山 田 伊 希 子
	砺波厚生センター	保健予防課 主 幹	土 井 ち え 子
	砺波厚生センター小矢部支所	地域健康課 課 長	沼 田 佳 奈 子
市町村	富山市保健所 大沢野保健福祉センター	所長代理	加 藤 浩 子
	高岡市	健康増進課 主 査	大 野 美 喜 子
	黒部市	健康増進課 主 任	籠 瀬 亜 希 子
教育機関	県立総合衛生学院	保 健 学 科 係 長	河 村 瑞 穂
オブザーバー	北海道大学大学院保健科学研究院	教 授	佐 伯 和 子

初任期保健師育成ガイドライン

発 行 平成 24 年 3 月

発行者 富山県厚生部医務課

〒930-8501 富山市新総曲輪 1-7

TEL 076-444-3220